



# 清流NEWS

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 Tel 042-514-8309  
発行月 1月・7月

Vol.135  
発行  
日野市  
環境共生部  
緑と清流課

## 環境月間の報告

環境共生部として3度目となる環境月間は「水と緑を引き継ぐまち への」をテーマに、広く環境に関する催しを行ってまいりました。

緑と清流課においては、例年に引き続き ①緑と清流ポスターの展示 ②ミニ水族館 ③日野用水クリーンデーを実施いたしました。今年度の活動をそれぞれご紹介します。

### 1 緑と清流ポスターの展示

市内の小・中学校の生徒が「緑と清流」をテーマに描いたポスターを市役所本庁1階に展示しました。

日程：

(小学生の部)  
10月1日(火)～10月11日(金)

(中学生の部)  
10月15日(火)～10月25日(金)

※受賞作品は2、3面でも紹介しています。

小学生の部 最優秀賞 中学生の部 最優秀賞



南平小学校 村田 瑛斗



三沢中学校 饗庭 風香

### 2 ミニ水族館

環境月間中、市内の用水路に生息する水生生物を本庁1階に展示しました。

日程：9月30日(月)～10月11日(金)



ミニ水族館の様子

### 3 日野用水クリーンデー

市民の方の参加を募り、日野用水の清掃活動をおこなう催しです。今年度は、約10名の市民に参加していただきました。ご協力ありがとうございました。

日程：10月23日(水)

### その他の催し

- 夏休みごみ探検隊(施設課)・・・7月22日(月)、7月23日(火)、7月24日(水)
- クリーンセンター環境展(ごみゼロ推進課) 10月1日(火)～10月27日(日)
- ごみ減量ポスター展(施設課)・・・11月1日(金)～11月15日(金)

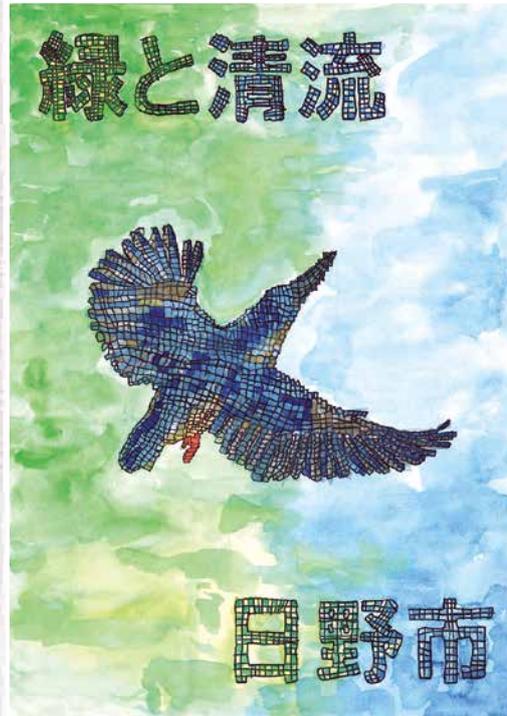


# ポスター

日野市環境月間の行事として、市内の小・中学校の子どもたちへ緑と清流に関するポスターを募集しました。令和6年度も841点の応募があり、その中から選ばれた作品です。身のまわりの水辺や緑へ対する子どもたちの思いが描かれています。

## 小学生の部

最優秀賞



南平小学校 村田 瑛斗

優秀賞



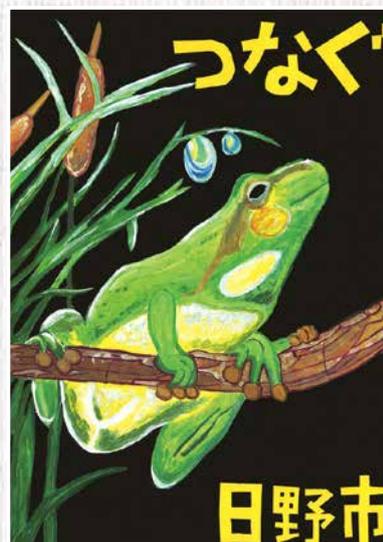
平山小学校 渡邊 更

優秀賞



南平小学校 宮川 拓海

佳作



日野第四小学校 藤田 湊

佳作



日野第七小学校 向後 優希

令和6年度

# 緑と清流水

中学生の部



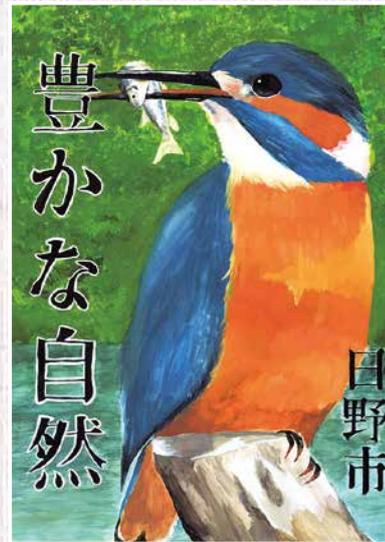
最優秀賞

三沢中学校 饗庭 風香



優秀賞

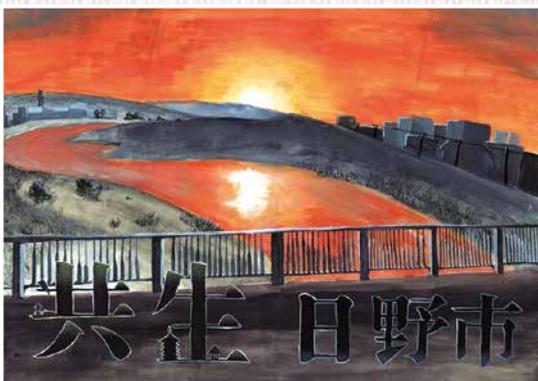
日野第三中学校 長川 紗季



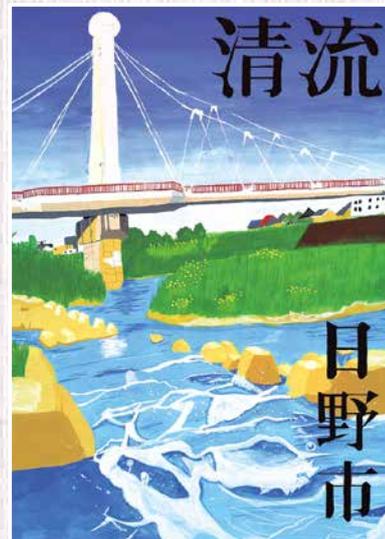
優秀賞

日野第四中学校 坂東 伊織

佳作



日野第四中学校 佐々木 沙絵



佳作

日野第三中学校 宮本 祥

# コンクール ～しぜん・ひと・まち～



最優秀賞



『小さな釣り人』……藤江 昭夫

優秀賞



『浅川と花火』……佐々木 陽介

優秀賞



『春光に輝いて』……渡邊 敦子

## 一般の部

最優秀賞	
藤江 昭夫	小さな釣り人
優秀賞	
佐々木陽介	浅川と花火
渡邊 敦子	春光に輝いて
日野市賞	
設楽 誠一	浅川クリーン作戦
八王子市賞	
吉川 博	浅川秋景色
佳作	
上原 正行	ビッグな浅川！
篠 正治	鏡のように光り輝く浅川
内藤 昇	水と光の共演
渡邊 英明	新緑の川

日野市賞



『浅川クリーン作戦』……設楽 誠一

八王子市賞



『浅川秋景色』……吉川 博

佳作



『ビッグな浅川！』 上原 正行

佳作



『鏡のように光り輝く浅川』篠 正治

佳作



『水と光の共演』……内藤 昇

佳作



『新緑の川』……渡邊 英明

## 企業賞

### コニカミノルタ賞

古屋 博 映り込む秋

### 京王電鉄賞

吉村 勝義 富士山目指して歩こう！オー！

コニカミノルタ賞



『映り込む秋』……古屋 博

京王電鉄賞



『富士山目指して歩こう！オー！』 吉村 勝義

### ● 作品募集期間

令和6年(2024年)6月15日～8月15日

### ● 応募作品数

一般の部	401 作品
中学生以下の部	80 作品
計	481 作品

### あさかわ写真コンクール結果

URL:<https://www.city.hino.lg.jp/kurashi/kankyo/mizumidori/asakawa/1027785/index.html>





# 第13回 あさかわ写真コン

## 中学生以下の部

<b>最優秀賞</b>	
佐々木千穂	さようなら太陽
<b>優秀賞</b>	
小島 輝哉	静寂
柳澤 諒	夕桜、燃ゆる空
<b>日野市賞</b>	
佐々木結衣	カラフルスカイ
<b>八王子市賞</b>	
依田 沙樹	橋から見た景色
<b>佳作</b>	
大塚 智暉	樹のトンネル散歩道
乙幡 千博	祭りの帰り道
景山 瑛太	あさかわに降り注ぐ光
佐藤 稟都	春がきたこの浅川に

あさかわ写真コンクールは、日野市と八王子市の両市を流れる浅川を、源流から多摩川の合流点までひとつの流域として捉え、良好な水辺環境と心豊かな浅川流域のまちづくりを目指すため、浅川流域連携事業のひとつとして行っている催しです。

今年で13回目を迎えたあさかわ写真コンクールですが、今年は481作品の応募があり、それぞれに撮影者の浅川に対する思いを感じることができました。審査の結果20作品を入選作品としました。今回スペースの都合で載せることができていない各作品への想いや、撮影時期、撮影場所はホームページで公開しております。

また、日野市では下記の日程で入選作品の展示を行う予定です。機会がありましたらお立ち寄りください。

※八王子市での展示については八王子市ホームページをご確認ください。

- 令和7年(2025年)1月14日(火)～1月30日(木) <sup>すえしげ</sup>平山季重 ふれあい館 1階 平山図書館
- 令和7年(2025年)2月3日(月)～2月17日(月) イオンモール多摩平の森 3階 プティメイン前

### 最優秀賞



『さようなら太陽』…………… 佐々木 千穂

### 優秀賞



『静寂』…………… 小島 輝哉

### 優秀賞



『夕桜、燃ゆる空』…………… 柳澤 諒

### 日野市賞



『カラフルスカイ』… 佐々木 結衣

### 八王子市賞



『橋から見た景色』… 依田 沙樹

### 佳作



『樹のトンネル散歩道』・大塚 智暉

### 佳作



『祭りの帰り道』…………… 乙幡 千博

### 佳作



『あさかわに降り注ぐ光』景山 瑛太

### 佳作



『春がきたこの浅川に』 佐藤 稟都

市の花「菊」の祭典

日野の秋の風物詩「日野市菊花展」が令和6年10月24日（水）から11月13日（水）まで日野中央公園において開催されました。今年の夏も菊の生育に悪影響を及ぼす酷暑によって、初日には「つばみ」もありましたが、二週間の開催期間中に見事に開花してくれました。期間中、日々、眺めてくれた方たちは、日に日に咲いていく菊の成長を楽しんでいただけだと思います。

地球温暖化が叫ばれる中、市の花である菊をいつまでも愛でることができるよう願うばかりです。

日野中央公園のステージ上の写真を掲載しましたので、会場に足を運べなかつた方も写真ではありますがお楽しみください。



公園名の由来

● **かくれ穴公園**（街区公園69）  
所在地：程久保一丁目23番1面 積：376㎡  
開園日：昭和55年1月1日  
この公園の付近一帯は三沢の八幡台と程久保のくろどん（九郎どの）台との中間にあり、下程久保の「台」と呼ばれた高台で、古くから農家が3



(C)2017 PASCO CORPORATION. (C)2017 INCREMENT P CORPORATION. いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

軒ありました。公園のすぐ西側、畑のあぜにあつた赤土の横穴には、九郎判官（源義経）が奥州に逃れる途中、潜み隠れたという伝説があります。

● **谷戸公園**（街区公園118）  
所在地：程久保一丁目23番22面 積：390㎡  
開園日：平成2年8月1日  
この公園は、程久保谷戸口近くにある典型的な台地の一角に位置しています。北方、谷戸口のはるか彼方には、多

摩川を隔てて西部武蔵野台地が望まれ、南は丘陵の尾根を越えて由木谷戸に通じていました。台の東西はそれぞれ深い谷戸を隔てて西に「くろどん台」、東に「八幡台」（三沢分）に隣り合います。古くからこの「台」には3軒の農家が小集落をつくり、うち3軒は高幡耕地に水田の出作を続けてきました。

秋の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなでまちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月（春）と11月（秋）の最終日曜日を「市内をみんなできれいにする日」としています。

市内一斉清掃は自治会、学生ボランティア等、様々な団体の方々にご協力をいただいております。

当日は自治会、学生ボランティアや個人での参加者と多くの方に清掃活動を行っていただきました。

この活動を今後の環境意識



の向上と地域の交流を深めるきっかけづくりとしていただければ幸いです。

引き続き、市内の良好な環境美化にご協力をお願いします。

令和6年度 秋の一斉清掃			
参加団体(組)		304	
参加人数(人)		18,000	
収集量(kg)	可燃	28,860	
	不燃	480	

【環境政策課】





水辺のある風景 日野50選  
選ばれた水辺を紹介します

③ 変わりゆく水田風景

日野の農の拠点の一つでしたが、土地区画整理事業や新たな道路建設により、田んぼはほとんど無くなりました。石積みの護岸でガードレールも無く、洗い場のある水路など今ある水辺を活かした区画整理事業にしてほしいものです。



辻にあるお地藏さま

④ 変わりゆく里山の風景

黒川清流公園の湧水が流れてくる窪地で「原ノ八ツ」と呼ばれ、現在は畑になっています。水は澄み、崖線緑地は保全され、里道は夏涼しく市民の散歩道として親しまれています。残念ながら川辺堀之内の区画整理事業により宅地に変わりました。右手には、保全されている斜面緑地、周辺には横穴墓古墳が多く発掘されている。昔は水路でヤツメウナギもとれたという。



散歩道として親しまれている旧道



⑦ 親子で賑わう水辺



東豊田公園

東豊田土地区画整理事業により新たにできた公園です。用水を取り込んだり、地下水を汲み上げ水辺を造っています。クヌギなど樹木も植えられ将来は豊かな森になりそうです。

休日は親子づれで賑わっています。

公園の入口近くには、「耕地整理記念」と書かれた大きな石碑が建っていた。近くの案内板によると、かつてこの辺りは「小高田」と呼ばれており、田んぼが広がっていたのだそうだ。



豊田・堀の内耕地整理の碑  
日野市内を流れる多摩川と浅川とは、昔から大雨のたびに氾濫をくりかえし、多くの田畑を流失させた。そのため、川沿いの村々は、毎年のように洪水よけの臨時番隊におかれ、ひいては洪水による農地の関係悪化も限られてきた。しかし明治末期になり浅川護国神社の代官にともない洪水災害が防止でき、農地の回復も可能となった。ために明治43年5月、豊田および川辺堀之内の地主・関係小作人の協力によって日野地区最大の耕地整理事業が着手され、大正2年3月完成された。この結果62ヘクタールの加増により、農作および農作の増収を得、用水配り農作の整備により、管理・作業のうえにも大きな便益が得られるようになった。  
昭和18年（1943年）10月1日指定  
日野市教育委員会



## 冬の自然観察 ～エノキの落ち葉めぐり～

冬になるとチョウやトンボ、カエルやヘビなど多くの生きものは、寒い冬を乗り越えるためにどこかへ姿を隠してしまします。そんな冬の間でも、越冬しているある生きものを見つけていることができるのが、「エノキの落ち葉めぐり」です。エノキは雑木林や公園、河川敷などに生える落葉高木です。植栽された木以外にも、木の実が鳥の大好物のため、鳥の糞から自然に芽生えた木も各地で見つけることができます。

### エノキの特徴

- ・上半分だけギザギザがある
- ・葉脈が根元で3本に分かれる



もし冬の間にエノキの木を見つけたら、ぜひ木の根元にある落ち葉をめぐってみてください。よく探すと、落ち葉の裏に張り付いた幼虫を見つけてることができるかもしれません。

### ○エノキの葉を食べる幼虫

エノキの葉は3種類のチョウの幼虫の大好物です。それはゴマダラチョウ、外来種のアカボシゴマダラ、そして国産のオオムラサキです。これらの幼虫は、夏から秋にかけてエノキの葉を食べて成長し、冬になると地面に落ちた葉の裏に隠れ、春までじつとして過ごします。そして春になると再び木を登って葉を食べ、夏ごろにかけてサナギから成虫へと羽化します。そのため冬の間、エノキの根元の落ち葉をめぐると、越冬している幼虫を見つけていることができます。3種類とも姿がよく似ていますが、背中突起が見分けるポイントです。顔を正面から見ると、耳のように長く伸びた角とつぶらな瞳がともかわいいです。これら3種類の見つけられる頻度と

### 目立つ背中の突起の数



しては、アカボシ、ゴマダラ、オオムラサキの順でしょう。アカボシ、ゴマダラは街中の木でもよく見かけますが、オオムラサキは豊かな雑木林が残る限られた場所にしか生息していません(市内では近年の記録は無いが、近隣の八王子市や多摩市には生息)。

### ○越冬中も危険がいっぱい

落ち葉の下に隠れて冬を越す幼虫たちですが、すべての幼虫が春を迎えることができないわけではありません。鳥に見つかって食べられてしまったり、乾燥にやられてしまったり、風によって遠くに飛ば

されてしまったりするかもしれません。また、街中の木では人間による落ち葉掃きの影響も大きいでしょう。越冬幼虫は木から30cm以内にいることが多いので、木の根元の落ち葉を残すことで幼虫を守ることが出来ます。

### ○それぞれの冬越し

落ち葉をめぐると、カメムシやテントウムシ、クモなど越冬している他の生きものも見つかります。チョウの仲間では、ウラギンシジミは成虫のまま常緑樹の葉裏で、アゲハチョウはサナギで、アカシジミは卵で越冬します。一見すると生きものが少ない冬ですが、それぞれの生きものが工夫を凝らして冬を乗り切っているのです。生きものの冬越しの様子を観察してみるのも、冬の楽しみ方の一つです。



アカボシゴマダラは特定外来種のため、別の場所への移動や飼育は禁止されています。

\*越冬中の幼虫の体力を消耗させないよう、あまり触らずやさしく元の場所に戻してあげてください。またアカボシゴマダラは特定外来種のため、別の場所への移動や飼育は禁止されています。

### あとがき

本紙を手にとっていたいだいての皆様、ご高覧いただきありがとうございます。

最近よく感じるようなのですが、日本は四季がなくなりつつあるなど感じています。夏が長く続いたと思うと急に冬がやってきて、すっかり寒くなってしまう。春と秋が以前に比べて短くなってしまうているなど感じます。

そのような気候変動の影響が水路の生態系にも変化が起きています。今年度は例年に比べ水路内に水草や藻が大量に繁茂したことが原因で水路内が堰き止められ、水位が上がり、水が外へあふれ出してしまうことがあり、緊急で職員が水草除去に向くことが多くありました。大量発生する水草や藻への対策や水路の管理方法を改めて考える必要があると感じています。

本紙を手にとっていたいだいての皆様は水環境に関心がある方々かと存じます。水環境の保全へのご理解とご協力をお願いします。

文・写真 日野の自然を守る会 片山 敦